豊橋市民病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

― 多彩な症例と丁寧な指導が、確かな力を育てる ―

豊橋市民病院は、800床を有する東三河地域（人口約74万人）を支える大規模基幹病院である。地域の中核として多様な症例が集まり、重症例・希少疾患・高度外科手術に加え、新生児を含む小児麻酔まで、幅広い臨床経験を積むことができる。豊橋市民病院で研修を開始した専攻医は研修開始から約1年半の期間で、専門医取得に必要な各分野の症例数を経験することが可能である。

特徴的な症例が豊富であるため、学会発表や論文投稿の機会にも恵まれている。

麻酔科には12名の専門研修指導医が在籍し、それぞれの専門性を活かした丁寧で温かい指導を行っている。指導医、専攻医ともに出身地や出身大学の異なる多様なメンバーが集まり、風通しの良い活気ある雰囲気も魅力である。

ハイブリッド手術室や2台のダヴィンチをはじめとする最新設備も整備されており、市中病院でありながら高水準の研修環境を実現している。麻酔科関連医療機器が充実した施設特性を活かし、各種挿管器具、経食道心エコーを含む超音波機器、筋弛緩モニター、血行動態モニター、急速輸液装置等について、適切な使用方法および管理方法を修得できる。

小児麻酔における術前プレパレーションおよび成人患者を含めた医療接遇の質の向上にも取り組んでいる。麻酔管理に関する知識および技術の修得に加え、医療者として必要なコミュニケーション能力の向上を図る。

勤務環境にも配慮しており、当直翌日の勤務免除や年間27日の有給休暇取得など、無理のない働き方が可能である。

名古屋大学をはじめとする県内外の有力施設との連携し、希望に応じて北海道や沖縄での国内留学的研修も選択できる。当院または連携施設では、移植医療、小児麻酔、心臓血管麻酔、集中治療、ペインクリニック、無痛分娩、緩和医療など、各施設の特色を活かした専門性の高い研修を受けることができる。

専攻医の麻酔科専門医試験合格率は100%。安心して学び、確実に成長できる環境がここにある。

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 本専門研修プログラムの研修期間は 4 年間とし、原則として基幹施設である豊橋市民病院において 2〜3 年間、連携施設において 1〜2 年間の研修を行うものとする。ただし、専攻医個々の希望ややむを得ない事情を考慮し、研修内容および研修期間については適切な範囲で調整を行う。
- 連携施設の選択は、専攻医の希望を踏まえつつ、基幹施設において十分に研修が困難、または経験が限定される分野を補完できる施設を優先的に選定する。
- 本専門研修プログラムにおいては、研修開始から最初の 2 年間を麻酔研修重点期間と位置付け、麻酔管理に関する症例経験の蓄積および関連手技の修得を主たる目的として研修を行う。3 年目以降は、専攻医の希望および研修到達度を踏まえ、基幹施設または連携施設において、集中治療、ペインクリニック、緩和医療等のサブスペシャリティ領域の研修を麻酔研修とともに実施する。

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	３年目	４年目
A	豊橋市民病院 （麻酔）	豊橋市民病院 （麻酔）	豊橋市民病院 （麻酔・緩和ケア）	連携施設 （麻酔・ペイン）
B	豊橋市民病院 （麻酔）	豊橋市民病院 （麻酔）	豊橋市民病院 （麻酔・集中治療）	連携施設 （小児麻酔）
C	豊橋市民病院 （麻酔）	豊橋市民病院 （麻酔）	連携施設 （麻酔・集中治療）	連携施設 （麻酔・集中治療）

週間予定表

豊橋市民病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室 緩和ケア	休み	手術室 症例発表	休み	休み
当直	待機		当直				

- 豊橋市民病院における当直および待機体制は、専攻医 1 年目においては救急外来当直を月 2 回程度、麻酔科待機を週 2 回程度とする。専攻医 2 年目の途中からは、習熟度を評価したうえで麻酔科当直を月 1〜2 回から開始し、段階的に当直回数を増やすとともに、待機回数を減じる体制とする。
- 専攻医が麻酔科当直を担当する際には、必ず麻酔科専門医がバックアップとして待機する体制を確保する。高度な判断を要する症例や予期せぬ異常事態が発生した場合には、速やかに専門医へ連絡し、指示および助言を受ける。
- 麻酔科当直ならびに救急当直翌日は業務を 1 日免除する。待機日は夜間の勤務実績に応じて翌日の業務を 1 日または半日免除する。
- 症例発表会（学会予演会を含む）：金曜 14 時〜（月 1 回）、心臓外科合同カンファレンス：金曜、食道手術合同カンファレンス：金曜、医薬品/医療機器説明会：月曜 11 時（不定期）に参加する。
- 日本麻酔科学会学術集会および日本臨床麻酔学会については、専攻医は原則として参加するものとし、当該期間における留守番業務は課さない。その他の学会についても、専攻医の希望に応じて参加を認める。

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修責任基幹施設

豊橋市民病院

研修実施責任者：中田 純

専門研修指導医：中田 純　（麻酔）
中島 基晶　（麻酔）
矢野 華代　（麻酔）
佐野 逸郎　（麻酔）
山口 慎也　（麻酔）
齋藤 公紹　（麻酔）
藤田 靖明　（麻酔、緩和医療）
松岡 慶　（麻酔、小児麻酔）
須貝 温子　（麻酔）
舟橋 秀利　（麻酔、心臓麻酔）
石井菜々子　（麻酔）
斗野 敦士　（集中治療、救急）

麻酔科認定病院番号：707

特徴：

800床を有する大規模基幹病院として、人口約74万人の東三河地域から多様な症例が集まります。重症例や希少疾患、高度な外科手術に加え、新生児を含む小児麻酔など、幅広い経験を積むことができます。呼吸器外科、食道悪性腫瘍、頭頚部腫瘍の症例が豊富で、多発外傷や産科DICなどの重篤な緊急症例も多数経験できます。

専門研修指導医は12名在籍しており、それぞれが多様な経歴と専門性を持ち、丁寧な指導を行っています。ハイブリッド手術室を完備し、ダヴィンチも 2 台体制で運用しています。全室にマックグラスや BIS 、筋弛緩モニター、シリンジポンプ 6 台以上を配備しています。 7 台のエコー機器を各種神経ブロックや血管穿刺（中心静脈、動脈、小児末梢）に用いています。肥満症例も多く、難易度の高い気管挿管、脊椎麻酔などの手技の機会も充実しています。

当直翌日の勤務免除や年間 27 日の有給休暇取得など無理のない勤務体制も整備されています。公立病院であるため土曜日も休日扱いです。

希望者は研修後半に半年間のICU専従期間を設けることや緩和ケアチームへの参加も可能です。

② 専門研修連携施設

名古屋大学医学部附属病院

研修実施責任者：秋山　浩一

専門研修指導医：秋山　浩一（麻酔、心臓血管麻酔）
荒川　陽子（麻酔）
柴田　康之（麻酔、ペインクリニック、区域麻酔）
鈴木　章悟（麻酔、集中治療）
浅野　市子（麻酔、ペインクリニック）
川瀬　宏和（麻酔、集中治療）
尾関　奏子（麻酔）
園部　奨太（麻酔、集中治療）
山根　光和（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）
安藤　貴宏（麻酔）
赤根　亜希子（麻酔）
平井　昂宏（麻酔、集中治療）
佐藤　威仁（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
米倉　寛（麻酔、集中治療）
駒場　智美（麻酔）
谷口　菜奈子（麻酔）
藤井　祐（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）
天野　靖大（麻酔）
三澤　知子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：38

特徴：

名古屋大学医学部附属病院麻酔科では、年間7,500件以上の麻酔管理症例を有しており、超低出生体重児から超高齢者まで、あらゆる年齢層・疾患に対応した高度な麻酔研修が可能です。

2025年度には、心臓血管外科727例、胸部外科537例、脳神経外科413例、帝王切開185例、6歳未満の小児472例の麻酔管理を実施しており、幅広い診療科にわたる多様な麻酔症例を経験できます。特に小児麻酔分野では、2013年に小児がん拠点病院に指定されて以降、小児外科、小児整形外科、小児脳神経外科などの小児がんに対する手術麻酔において豊富な実績を誇ります。2021年度からは小児へのDa Vinci手術も開始されており、高度な小児外科手術麻酔の研修も可能です。

産科麻酔では、母体合併症や胎児異常を有するハイリスク妊婦の帝王切開麻酔を多く担当しており、超緊急帝王切開では決定から30分以内の娩出を目標に、産科チームと密に連携しながら迅速な対応を実現しているほか、無痛分娩にも対応しています。

心臓血管外科領域では、CABGや弁置換術に加え、大動脈瘤などの大血管手術にも積極的に取り組んでいます。重症心不全センターを併設し、年間約10例の体内式左室補助人工心臓（LVAD）植え込み術を行っており、心移植適応患者への高度な麻酔管理経験を積むことが可能です。2022年度からは小児心臓外科手術が開始され、2025年度には約80例の小児心臓外科手術の麻酔を行い、小児循環器麻酔にも深く関わることができます。

また、当院では腎移植・肝移植・心移植に対応しており、2025年度からは肺移植も4例実施されました。移植医療の麻酔という、極めて専門性の高い領域においても実践的な経験を積むことができます。

そして、当院のもう一つの大きな特色が、麻酔科主導のClosed ICUである「外科系集中治療部（SICU)」の存在です。SICUでは2025年度には年間2,135例の重症患者を受け入れています。その約半数が術後症例ですが、残りの半数は敗血症、ARDS、肺炎、急性腎障害といった重症疾患であり、集中治療を要する重症病態に広く対応しています。麻酔科医が中心となって診療を行うClosed ICU体制をとっており、術後管理だけでなく、感染症・呼吸循環不全・多臓器不全などの集学的治療を通じて、高度な重症病態の管理スキルを身につけることができます。

麻酔科専攻医は3〜6ヶ月間のSICUローテートが可能で、集中治療専門医の取得を目指す場合には、必要に応じてさらに研修を継続することができます。多職種連携を重視したチーム医療が行われており、医師としての視野を広げながら、麻酔＋集中治療の二本柱でのキャリア形成が可能です。

さらに、週3回のペインクリニック外来および入院管理も行っており、慢性疼痛や神経ブロック、がん性疼痛に対する介入など、麻酔関連領域にも幅広く対応できる力を養うことができます。

名古屋大学医学部附属病院麻酔科は、手術麻酔にとどまらず、集中治療、移植医療、小児・産科・心臓外科麻酔、ペインクリニックといった多岐にわたるフィールドで質の高い教育と実践の場を提供しています。豊富な症例数と充実した指導体制のもと、将来の専門医・指導医を目指すために最適な研修環境を整えています。

札幌医科大学附属病院

研修実施責任者：山蔭　道明

専門研修指導医：山蔭道明
枝永充隆
岩崎創史
早水憲吾
杉山由紀
澤田敦史
吉川裕介
君塚基修
茶木友浩
数馬聡
立花俊祐
佐藤智恵
赤塚正幸
木井菜摘
池島雄太
池島まりこ

新田麻子

麻酔科認定病院番号：5
特徴：
札幌医科大学附属病院では年間6000件以上の手術症例を行っており，ロボット手術をはじめとした先端医療に対応しています．麻酔科専門医以外に，心臓麻酔，小児麻酔，産科麻酔，神経ブロック，ペインクリニックなどの資格を取得した多くの麻酔科医が在籍しており，専門性の高い指導を受けることができます．

豊田厚生病院　http://toyota.jaaikosei.or.jp/
研修実施責任者：上原博和　anest.trust@gmail.com
専門研修指導医：上原博和（麻酔）
小島康裕（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・産科麻酔）
岩伶（麻酔・小児麻酔）
伊藤雅人（麻酔・集中治療・小児麻酔）
酒井博生（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・産科麻酔）
川口里奈（麻酔）
川口大地（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・産科麻酔）

麻酔科認定病院（認定第1456号）
特徴：
・西三河北部における地域中核病院。豊田市の市民病院的役割を担う。
・地域中核災害医療センター、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院であり年間救急車受け入れ約8,000件を行っている。ドクターヘリによる搬送、ドクターカーの運用を行っている。
・成人心臓血管手術が年間160例程度あり少人数の専攻医でローテーション担当することで経験値が多く得られる。
・Hybrid手術室にて、EVAR・TEVAR・TAVI・LAAC症例が増えている。
・硬膜外麻酔、末梢神経ブロックについてはそれぞれ年間150例以上修練が可能である。
・動画教育に力を入れている。麻酔手技YouTuber「あねす亭ふぇん太」氏との独占提携により一般公開もしくは非公開の大量動画を閲覧することができ、各自のペースで手技に対する理解を深めることが可能である。
・麻酔時緊急状態には「緊急コールシステム」により瞬時に指導医群がヘルプに駆けつける事が可能である。

・術前検査をスムーズに不備なく執り行うことが可能となる「術前検査センター」機能の運用と「麻酔科術前外来」に携わることにより、雑務を極力アウトソーシングしつつかつ術前評価不足無く患者把握が出来る。
・ペインクリニック専門医指定研修施設である。超音波ガイド下神経ブロック、X線透視下神経ブロック（350例/年)、手術療法を積極的に取り入れており修練が可能である。
・麻酔科医主導で無痛分娩管理を行っており修練が可能である。
・日本緩和医療学会基幹施設であり、緩和ケア講習会を定期的に開催している。
・日本緩和医療学会指導医資格を有する麻酔科医を中心に緩和ケア病棟を運営している。
・麻酔科医が緩和ケアチームの一員として関わっており、がん性疼痛にも神経ブロック及び手術療法を積極的に施行している。

名古屋掖済会病院

研修実施責任者：　東　秀和

専門研修指導医：	東　秀和	（小児麻酔）
	平林　綾香	（小児麻酔）
	本池　有希	（産科麻酔）
	成田　沙里奈	（麻酔）
	鈴木　藍子	（産科麻酔）
	片岡　万紀子	（心臓麻酔）
専門医：	小林　千尋	（麻酔）
	杉浦　春香	（心臓麻酔）
	古橋　聖子	（麻酔）
	喜田　藍	（麻酔）
	宮田　尊安	（麻酔）
	小島　彩友美	（麻酔）
	髙田　秀人	（麻酔）

麻酔科認定病院番号：760
施設の特徴
　救命救急センターを併設し、愛知県重症外傷センターの指定を受けているので多発外傷などの緊急手術が多い．末梢神経ブロックも年間1200件程施行している．
　産科麻酔の専門施設でトレーニングを受けた麻酔科医主導で無痛分娩を年間50件ほど行っている．小児病院でトレーニングを受けた小児麻酔認定医が在籍し小児麻酔を指導している．心臓血管麻酔の認定施設になっているので心臓麻酔も経験できる．

春日井市民病院

研修実施責任者：名原　功

専門研修指導医：名原　功　　（麻酔、心臓麻酔、集中治療、臨床研究）
山崎　諭　　（麻酔、集中治療）
三宅　健太郎　（麻酔、集中治療、臨床研究）
末永　大介　　（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
鈴木　帆高　　（麻酔、心臓麻酔、集中治療）
野崎　裕介　　（麻酔、心臓麻酔、集中治療）
清水　礼佳　　（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
栗本　恭好　　（麻酔、集中治療）
池田　暁彦　　（麻酔、心臓麻酔）
村山　誠弥　　（麻酔、集中治療）
木下　純貴　　（麻酔、集中治療）
浦野　福恵　　（麻酔、心臓麻酔、集中治療）
稲垣　諒将　　（麻酔、集中治療）
服部　裕樹　　（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：822

施設の特徴：

「楽しく論文を書いてみませんか？」

2025年度から、麻酔科専門医プログラムにおいて、専攻医の専門医取得要件に論文執筆が必須となりました。当科には京都大学公衆衛生大学院修了の臨床研究・EBMの専門家が2名在籍しています。

論文執筆や学会発表には、それぞれの「コツ」や「お作法」があります。仕組みを一から理解し、適切な指導を受けることで、将来自らが指導医となった際に後輩を導ける確かなノウハウを身につけることができます。専門医取得の際に論文作成が必須となったことでハードルはやや上がりましたが、私たちのノウハウを活用すれば、「誰でも」「簡単に」「楽しく」論文を書くことが可能です。例として、2ヶ月で企画からアクセプトまで至った実績もあります（英文誌）。

1. 最大の強みは「教育」です。良い臨床医になるためのプロセス、必要事項を言語化し、適度な症例数、適正な労務管理の元、経験豊富な指導医が「考える臨床医」の育成を行います。
2. 麻酔科医に必要な麻酔はもちろんのこと、集中治療、心臓麻酔、EBM（論文の読み方、使い方）、学会発表、症例報告などの知識、経験、お作法を「系統的に」、「短期間で」、その道の専門家から直接指導で、習得することが出来ます。

3. 専攻医の自主性を重んじており、「ニーズに合わせて」資格取得のための勉強会や、系統的な講義、院内限定の秘伝のノート共有など、専攻医の成長を促す工夫があります。
4. 外科系のほぼ全てのすべての科の手術があるため、専門医研修で必要とされている特殊症例の麻酔件数は全て自院で経験可能になっています。
5. 日本集中治療医学会の集中治療専門医研修施設です。
6. 救命救急センターを有しており、救急外来からICUまでの周術期管理をシームレスに学ぶことができます。循環器内科の症例も含め、内科系の重症患者も管理します。
7. 希望者には学会発表、症例報告、臨床研究など英語、日本語問わず、一から指導します。
8. 疲弊しない労務環境の維持を徹底し、個人のwell-beingを第一に考えています。

飯田市立病院

研修実施責任者：岩澤健
専門研修指導医：岩澤健　　（麻酔）
　　原克実　　（麻酔・ペインクリニック）
　　久米文子　（麻酔）
　　沓名慎也　（麻酔）

研修委員会認定病院取得（麻酔科認定病院番号：512）
特徴：地域で中心的な役割を果たす手術施設．希望者は緩和ケアチームへの参加・
　　ペインクリニック研修可能

成田記念病院

研修実施責任者：朝田　智紀
専門研修指導医：朝田　智紀（麻酔）
　　大沼　哲朗（麻酔）
　　中尾　康尚（麻酔）
　　宮林　真沙代（麻酔）

麻酔科認定病院番号： 1239
特徴：麻酔科管理は主に消化器外科、乳腺外科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、歯科口腔外科の症例に対して行われています。東三河で最初に透析を導入した病院であり、合併症として腎疾患を抱える患者の麻酔が多いことが特徴です。

あいち小児保健医療総合センター

研修実施責任者：宮津　光範

専門研修指導医：宮津　光範　（小児麻酔、小児集中治療、医療経済学）
山口由紀子　（小児麻酔、産科麻酔）
加古　裕美　（小児麻酔）
渡邉　文雄　（小児麻酔、小児心臓麻酔、心臓エコー）
青木　智史　（小児麻酔、小児集中治療、臨床倫理）
北村　佳奈　（小児麻酔、小児心臓麻酔）
一柳　彰吾　（小児麻酔、QI）
川津　佑太　（小児麻酔、シミュレーション教育）

専門医：　中野　晃輔　（小児麻酔、心臓麻酔）
森下　博隆　（小児麻酔）
澤田　健　（小児麻酔）
手﨑　貴友　（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号：1472

特徴：

すべての外科系診療科がそろっている東海北陸地方唯一の小児専門病院である。

＜当センターの強み＞

A. 概要

小児病院出身のエキスパートから直接指導が受けられる。指導医によるバラつきを極力減らすために制定された「標準手順書」に従って丁寧な指導を行う。標準手順書は最新のエビデンスに基づき毎年アップデートされている。急激に進む少子化の中にあっても麻酔件数は例年並を維持している。小児麻酔技術の習熟に最適な短時間手術が多く、短期間で効率よく経験を増やすことができる。MRI・CTなどの手術室外鎮静も麻酔科医が行っている。希望者は分娩時鎮痛（無痛分娩）に関与することもできる。

B. 独自の教育システム

高機能・高忠実度マネキンを用いた先進的な麻酔シミュレーション、スタッフによる系統レクチャーおよびケースカンファランスを効率的に組み合わせた独自の教育プログラムを実践している。英語の教科書を使った症例ベースの勉強会をフェロー主体で行っている。スタッフはアドバイザーとして参加する。

C. 小児心臓麻酔

新生児症例を含む複雑心奇形の心臓外科手術症例が増加中であり、症例数は東海北陸地方で最多である。当センターは心臓血管麻酔専門医認定施設であるが、心臓血管麻酔専門医が複数名在籍する小児病院は全国でも稀である。フェローは３

ヶ月経過後から心臓麻酔研修を開始する。3Dコンピュータグラフィックスを利用した経食道心エコー教育を導入している。センター内に3台の小児用EXCORを保有しており、心臓移植待機目的のLVAD管理を積極的に実施している。

D. 学術活動

臨床研究や論文執筆を含む研究指導にはとくに力を入れている。論文執筆時にはスタッフが責任をもってサポートするが、執筆は強制されない。名古屋大学医学部連携大学院を小児センター内に併設しており、当センターで勤務しながら「PhD; 博士（医学)」の学位取得が可能である。その他の学位取得実績としては、「MPH; 公衆衛生学修士（専門職)」、「MBA; 修士（経営学)」などがある。大学院授業の履修に支障がないように配慮された柔軟な勤務が可能である。

E. PICU

麻酔科はPICUの運営には直接関与していないが、希望者はPICU研修が可能である。東海北陸地方最多である16床のPICUは、麻酔科出身者を含む小児集中治療科専属医師らによりclosed運営されている。術後だけでなく救急経由の入室も多く、小児ECMOは全国トップクラスの症例数と成績を誇る。

F. 小児救命救急センター

ドクターヘリ搬送およびドクターデリバリー（当センター医師をヘリで派遣）が増加傾向であり、愛知県だけでなく岐阜県や三重県からも広く小児重症患者を集めている。

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

研修実施責任者：川端徹也

専門研修指導医：川端徹也　（麻酔、小児麻酔）
比嘉久栄　（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
杉浦(兼城)真帆（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
伊敷聖子　（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
野中信一郎　（麻酔、小児麻酔、区域麻酔、心臓血管麻酔）
北原武尊　（麻酔、小児麻酔）
松田龍太　（麻酔、小児麻酔、区域麻酔）

1986年 研修委員会認定病院取得（認定病院番号：409）

特徴：

地域医療支援病院、小児麻酔専門施設、心臓血管麻酔認定施設

新生児から高齢者まで、麻酔関連の専門資格取得に必要な経験症例を全て網羅

福利厚生が充実し、常夏の島で公私共に充実した研修が行える環境です。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2026年11月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

豊橋市民病院　麻酔科 第一部長　中田　純
〒441-8570
愛知県豊橋市青竹町字八間西50番地
TEL 0532-33-6111
E-mail nakata-jun@toyohashi-mh.jp

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム

管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用

いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.

- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき, 専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し, **研修実績および到達度評価表**, **指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う. 研修プログラム管理委員会は, 各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し, 専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる.

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において, 専門研修４年次の最終月に, **専攻医研修実績フォーマット**, **研修実績および到達度評価表**, **指導記録フォーマット**をもとに, 研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて, 各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識, ②専門技能, ③医師として備えるべき学問的姿勢, 倫理性, 社会性, 適性等を修得したかを総合的に評価し, 専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する.

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標, 経験すべき症例数を達成し, 知識, 技能, 態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である. 各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において, 研修期間中に行われた形成的評価, 総括的評価を元に修了判定が行われる.

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は, 毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い, 研修プログラム管理委員会に提出する. 評価を行ったことで, 専攻医が不利益を被らないように, 研修プログラム統括責任者は, 専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある.

研修プログラム統括管理者は, この評価に基づいて, すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために, 自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する.

12. 専門研修の休止・中断, 研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき, 研修プログラム管理委員会が判断を行う.
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる.
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は, 連続して 2 年迄休止を認めることとする. 休止期間は研修期間に含まれない.

研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．

- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

② 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13.地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての豊田厚生病院，飯田市立病院，成田記念病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．また、機会があれば東三河北部の僻地病院（新城市民病院など）にも指導医と共に出向し、地域医療への麻酔診療提供を行う。

14.専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。